

科目名 Course Name	知財戦略マネジメント論 Strategic Intellectual Property Management			ナンバリング No.	C4-003		
年次	2年	期別	後期	単位数	2単位	授業形態	講義
担当者氏名	長江 庸泰						
連絡先(質問等)	C-ラーニングにて対応、オフィスアワー:研究室 月～木曜 9:00～16:00(授業・会議時間を除く)						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP2,DP3,DP5						
授業の概要と 到達目標	<p>知的財産とは、人が考え出した発明やアイデア、デザイン、音楽、小説など「かたちなない財産」のことである。本授業は、この“知財”をキーワードに事業戦略における知的財産マネジメントの基礎知識の習得と事例における知的財産マネジメントのビジネス・スキルの習得を目標とし、技術・制度・市場のグローバル化問題に対し、知財戦略をマネジメントの立場から捉え、①「国際競争力の強化」、②「国際市場展開の強化」、③「オープン・イノベーション下でのリーダーシップ」の3点から学習する。</p> <p>①「知財の意味と歴史」の学習から“知財の本質とその歴史的変遷”を学習する。  ②「知財の保護(技術開発・工業デザイン・創作的表現・国際的保護)」の学習から“知財権の意味”を身につける。  ③事業戦略における知的財産マネジメントの基礎知識を学習する。  ④グローバル市場における知的財産マネジメントを学習する。  ⑤企業のビジネスモデルに対する知的財産マネジメントの事例を学習する。</p>						
授業の方法	本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、知財戦略マネジメントに精通した人材育成を目指すものである。						
学習成果	L01						
	L02						
	L03	①「知財の意味と歴史」の学習から“知財の本質とその歴史的変遷”を説明できる。 ②「知財の保護(技術開発・工業デザイン・創作的表現・国際的保護)」の学習から“知財権の意味”を身につけられる。 ③事業戦略における知的財産マネジメントの基礎知識を説明できる。 ④グローバル市場における知的財産マネジメントを説明できる。 ⑤企業のビジネスモデルに対する知的財産マネジメントの事例を説明できる。					
	L04						
課題に対する フィードバック	小テスト・期末試験等の解答を示し、結果は個別にフィードバックする。						
教科書/ 参考図書	長江庸泰作成の“デジタルテキスト[知財戦略マネジメント論 2022 年度版]”を活用する。						
履修上の留意点 やルール等	事前・事後学習各回 180 分、本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する自主創造の教えを基に、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けること。						
担当教員の実務 経験	●実務経験(職種:会社役員 職歴:42 年)、実務経験を知財戦略マネジメントの実践面と学習・説明等で活用する。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	以下の3点から評価する:①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S 評価の基準:上記参加態度を全て満たすもの。			10	
レポート/作品	Sのレポートの評価:①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を			30	

佐野日本大学短期大学 2022 年度シラバス

	論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月 1 回計 3 回提出予定(締切は各月末)。				
<b>発表</b>	Sのレポート発表評価:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。			20	
<b>小テスト</b>	毎時間実施。成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59			20	
<b>試験</b>	16週目に実施。成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59			20	
<b>その他</b>					
<b>合 計</b>				100	

回数		授業計画
1	授業内容	授業ガイダンス:本授業の進め方と学び方/レポート課題説明と出題の解説、シラバスを読んでおき、各授業に関する質問事項等を考えておくこと。
	事前・事後学習	事前学習(上記質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを整理しながら、自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)。
2	授業内容	知財の意味を考える①(創造戦略/権利化戦略/活用戦略/管理戦略/インフラ戦略)/パラダイムシフトとは。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
3	授業内容	知財の意味を考える②(知財活用事例:ヘルシア緑茶 versus コカ・コーラ、Apple とサムスン電子のスマホ訴訟合戦)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
4	授業内容	知財の歴史、知的財産マネジメントの標準化;標準とパテントプール(医薬品の研究開発と特許の種類)(グループワークによるプレゼンとディスカッション①)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
5	授業内容	技術開発の保護:社内規定の整備→職務発明規定と営業秘密管理規定/レポート課題説明と出題。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
6	授業内容	工業デザイン・営業標識の保護:商標権侵害←警告書への対応。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
7	授業内容	創作的な表現の保護:著作権と特許権の違い。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
8	授業内容	知財の国際的保護:属地主義を原則に条約により国際調和をはかる、製品ライフサイクルとその各段階における知的財産マネジメント(グループワークによるプレゼンとディスカッション②)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
9	授業内容	知財戦略:デファクトスタンダード(de facto standard);市場における競争や広く採用された「結果として事実上標準化した基準」←最強の参入障壁/レポート課題説明と出題。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
10	授業内容	知財の情報開示:知財管理の一般的業務構成、インテルのマイクロプロセッサのマーケティングと知的財産マネジメント。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
11	授業内容	知財の証券化:知財信託 管理型・資金調達型、アップルの収益メカニズムとアップルが守るコア領域:アップルの知的財産マネジメント。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
12	授業内容	知財人材の育成:知財スキル標準→世界初、知的財産パーソン育成のための“指標”、(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
13	授業内容	知財立国とグローバル戦略、知的財産ミックスによるブランド戦略。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
14	授業内容	知財スキルと標準化①:グローバル戦略マネジメント。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
15	授業内容	知財スキルと標準化②:グローバル戦略のための人材マネジメント。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。